第1回　基礎講座

なぜ子供に芸術文化体験が必要なのか ？
～アーティスト・ワークショップを通じて社会課題と向き合う～

開催日時：2025年9月27日（土）14：00～16：30
場所：アーツカウンシル東京 会議室　東京都千代田区九段北4丁目1-28

講師：堤 康彦 (NPO法人 芸術家と子どもたち 代表)

講座のねらい

コーディネーターとして子供に向けた事業を企画、実現に導く上で根幹となる子供自身にとっての芸術文化体験の意義や重要性を理解する。

講座の内容

1　経歴の紹介
自身のキャリアの中で「芸術家と子どもたち」を立ち上げるに至った経緯を紹介

2　子供の芸術文化体験を企画する目的
「芸術家と子どもたち」の活動を写真や映像とともに紹介
個々の子供における課題に対して、その解決の「ひとつの手段」として芸術文化体験を用いる「社会課題解決型」の視点に基づいて、事業の組み立て方とコーディネーターの役割について整理

3　子供を取り巻く社会状況とアーティスト・ワークショップの効用
学校教育の現場から、児童福祉や矯正教育・医療・地域の現場へと活動を広げていく中で、それぞれの現場で感じた、アーティスト・ワークショップが子供や周囲の大人へ与えてきた影響を分析

4　子供向け芸術文化体験コーディネーターに必要な資質とは？
25年間活動を続けてきたことによる気づきと、コーディネーターとしてさまざまな現場や子供とかかわる上で大切にするべき姿勢や考え方について提示

5　質疑応答
・参加に前向きではない子供たちへの向き合い方
・長期間子供たちと向き合う意義
・単発ワークショップでは何を目的とするか
・子供向けの事業を展開する企業における出資先と目的
・アーティストとのやりとりで大切にしていること
・美術の分野における事例/低年齢児との関係性の持ち方

受講生の声（一部編集しています）

子供たちを取り巻く社会状況・課題を解決する**「ひとつの手段」としての芸術文化体験のあり方**を知ることができました。

アートだからこそ横断的ハブの役割ができることは印象的でした。「街のセーフティネットとしてのアート」という言葉は目から鱗でした！

「ワークショップを企画するにあたって、常に、**子供に出会わせたいアーティスト**であるかを大事にしている」という話に、ハッとした。

「アーティストは先生の代わりではなく共同作業のパートナー」という考えは印象的だった。